



3月29日

15 合発曲「道」「春を待つ」に力が入ったレッスン

□ 3月29日(日)の定例レッスンは、奥村さんの体操と本並先生のヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮、森二三さんのピアノ伴奏で、3月20日(金)のレッスンに引き続き、「なぜ?」「ねがい」「道」「春を待つ」の4曲と「初心のうた」「山賊のギャロップ」の計6曲を練習しました。参加者は全27名でした。



□ 「道」と「春を待つ」は今年のうたごえ祭典合唱発表会での男声合唱団「昇」の発表曲に決まりました。独奏者(ソリスト)の心のこもった力強い声を指揮者が引出し、男声の合唱で支え盛り上げていく「道」を、本番を想定して時間を計って何度も歌い上げました。



□ 運営委員会からの報告

(1) 大阪うたごえ協議会会長の岡邑さんから、「協議会に加盟している合唱団訪問」の第2回目として、先日、「吹田おらが町コンサート合唱団」を訪問したとの紹介がありました。人数は少ないが力強い合唱活動を大阪北部でしている合唱団の一つで、頼りにしているとのことです。

(2) 奥村うたごえ協議会副会長からNTP ニューヨーク会議への派遣カンパと署名の一層の協力をとの要請がありました。

No.501 (1/2)

「なぜ？」 林光 作詞・作曲

溶けてよじれた一升びん
あなたたちの 束の間の宴のあと

とっくに底をついた
このクニの台所

やっと手にいれた酒くみかわし
あなたたちは何を語りあったのか
禁じられた母のコトバを
きょうばかりは思いきり話したか
むりやり捨てさせられたナマエで
たがいに呼びあったのか
うばわれたクニを思い

クニをとりもどす日を夢みたか

その日は<光よみがえる祭り>
タイコとどろきカネがひびき
白い服が蝶のように
街を村を舞い踊る……

十日ののちにやってくる その日をまたず
あなたたちは
べつのおそろしい光に
灼かれた

クニとナマエとコトバをとりもどした
あなたたちの兄弟は
だが このクニで まだ
ほんとうの安らぎを得てはいない

溶けてよじれた一升びんは
わたしたちにうったえる
溶けてよじれた一升びんは
わたしたちをいつめる

なぜ？

林光 作詞・作曲「生命の木、空へ合唱
児童合唱、ピアノのための」

1. 木は空を
2. **なぜ？**
3. 天の火
4. 道の歌
5. 敗戦のこども
6. あらゆるものの中に

「被爆からよみがえった1本の木
溶けてよじれた数本の1升瓶
高温で焼かれて表面がガラスで覆われた瓦
制服・靴・学校鞆・手をつけられないまま炭
化した弁当箱
爆死したカトリック信者たちの洗礼名が刻
まれた墓石

広島と長崎の遺物・遺品がこもごも語るもの
がたり」
（「BOOK」データベースより）

1987年に初演された合唱組曲
”音楽は、<核>にたいして物理的には無力で
あるが、人びとの祈りとねがいを代弁し、行
動へと誘うくらいのちからはあるのだ。”
（初演時の作曲者のメッセージより）

この歌（「なぜ？」）は、広島・長崎の被爆者
の遺品の中にあつた溶けた一升瓶から、在日
韓国・朝鮮人の人たちを思い作られた歌であ
る。